

令和3年1月5日

四季の丘はたそめ自治会
会 員 各 位

四季の丘はたそめ自治会
会 長 皆 川 和 彦

市道0139号線（旧県道 日立・笠間線）について
（新しく発見された市役所が発行した都市計画図）

四季の丘はたそめ団地の大規模開発の開発許可が下りた後、市議会及び関係部署、開発関係者に説明用として作成された。この図面を11月2日に副市長に交付しました。都市計画課は、この図面の重要性が理解出来ず、都市計画課長が図面の意味の解釈を求めて来た。図面の意味は、大規模開発行為の許可は、茨城県が平成2年に下ろしています。この時の図面を基にして、常陸太田市が新しく都市計画図を作成しました。その頃は、まだ県道日立・笠間線の話は、浮上しておりませんでした。ですからこの都市計画図には、記入されておりません。同様に、建築協定の図面の中にも記入が有りません。

四季の丘団地の中に、県道日立・笠間線を入れる様に成ったのは、平成7年7月7日の要望書を、渡辺龍一市長の名前で、茨城県土木部に提出した事が始まりです。この日を以て、四季の丘団地の苦難の始まりです。団地の分譲開始は、平成4年8月ですから、住民が建売分譲を購入した後に、無理やり渡辺龍一市長が道路を入れようとしたのです。分譲開始から、僅か2年（3年）しか経たない内に、県道日立・笠間線を入れる話では、団地の住民を馬鹿にしています。

茨城県が開発許可を出す前に、常陸太田市に意見を求めてきます。河川協議、道路協議等、汚水処理場の処理水は里川から茂宮川へ変更、高貫町長谷町から団地に入る道路の整備（通学路としての整備、生活路として整備）の意見は有りましたが、日立・笠間線の話は有りませんでした。常陸太田市の意見書に書かれてあればうまく処理出来たでしょう。

今回の市道0139号線については、産業建設委員長の藤田市議会議員は、団地の為に活動した議員では有りません。むしろ市道0139号線を積極的に推進した議員ですので、次の市議会選挙には応援する候補では有りません。議員が市政をチェックする事を忘れれば、応援するに値しません。大久保市長の市政は、東部開発の区画整理、市道0139号線の事業とも、破綻しています。道路付近に自分の土地（200㎡どころでは有りません）があるが故に、団地に迷惑をかけても、強引に通そうとしたのです。

今回の勝負は付きました。土地収用法が適用出来る事案では有りません。出来る様にするには時間が足りません。市が警察を呼んだ時点で、情で解決出来る要素は消滅しました。

私は人生の途中で建設関連法で一番難解な、公有水面埋立法の世界に入りました。沖縄の辺野古埋立工事の根拠となるものです。道路建設は客観的に見て絶対に無理です。